

祝辞



山田啓二
京都府知事

今日、私たちを取り巻いている状況は、大きな変革の時を迎えております。地方自治体につきましても、地域の住民の方々の福祉を考えた時、積極的に新しい未来を切り開いていこうとするのか、それとも受け身になってその状況の中で流されていくのか、大きな選択を迫られています。

このような中、園部町・八木町・日吉町・美山町におかれましては、まさにこれからの地域の自立を目指していく中で、合併が有効な方策であると考えられ、昨年4月に設置されました法定協議会において、真摯な議論を重ねてこられました。

ここに至るまでの取組は大変困難な道のりであったものと拝察いたしますが、本日、関係者の立ち会いのもと、合併協定書への調印の日を迎えられましたのは、各町長さんをはじめ、ここにお集まりの各委員の皆様、そして何よりも地域の皆様方がその地域の将来を真剣に考え、協議・議論を積み上げてこられた成果でありまして、皆様のご熱意に対しまして、京都府の知事として心から敬意を表します。

これから今日の日を第一歩として、来年1月1日の南丹市の誕生、新しい市の発展へと、まだまだ険しい、そして皆様方の一致した努力の必要な日々が続くことと思っております。京都府といたしましても、そうした皆様方のご努力を、力を挙げて支えてまいりたいということをごにお約束申し上げますとともに、本日お集まりの皆様方のますますのご健勝・ご活躍そして南丹市への素晴らしい道のりを心から祝しまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



田中英夫
衆議院議員

今日の地方を取り巻く課題は多くありますが、4町による合併調印式を迎えることができ、新たなまちづくりへ向けての一つの歩む基礎ができたと思われれます。

野中会長の挨拶にもあった、農村を中心とする地域で人がより生き生きと住み、そして暖かいコミュニティができるという、そんな地域社会を目指していくことは、日本国中の課題であるというふうに思っています。

それだけに、今日からがまた新たな旅立ちであり、新市の発足までのご準備も含めて、様々なご苦労があらうと思いますが、多くの議論を重ねていただき、全国のモデルケースとなるよう、私達も、ご支援をさせていただくことが役

割であらうと改めて決意を致したところでございます。皆様方のご労苦に心より敬意を表しつつ、そして4町の住民の皆様方にもお祝いを申し上げてご挨拶とさせていただきます。



小泉顕雄
参議院議員

小異を捨てて大同につくという言葉がございますが、今ほど、私はこの言葉が持つ大きな意義、あるいは人間の知恵を深く感じた時はありません。まさに今、地方の時代が言われ、しかも一方では、非常に厳しい財政状況が言われる中で、大同につくことの意義というものを本当に真剣に捉えていただきました4人の町長さん、あるいは委員の皆様方のご英断に深い敬意を表したいと思っております。

来年、新しく南丹市が発発をするわけでありませけれども、大同について本当によかったという喜びを南丹市の市民の皆様お一人一人が実感をしていただけますように、心からお祈りを申し上げますとともに、今日に至りますまで色々とお取り組みをいただきました皆様方が、引き続き心を一つにして、新しい市の誕生のためにご尽力を賜りますよう、心からお祈りを申し上げます。今日のこの良き日のお祝いの言葉とさせていただきますと思っております。